「豊かな社会」を意識させる授業展開

―　名古屋国際高等学校　教諭　内藤圭祐　先生　―

内藤先生はこれまで、「SDG s（持続可能な開発目標）」を踏まえ、「多文化共生と減災」、「経済活動と貧困」、「社会生活と循環」などの探究テーマを設定し、授業実践をされてきたとうかがいました。今回は、「豊かな社会」を生徒に意識させる授業実践例をご紹介いただきます。

目標・ねらいについて教えて下さい。

本校は文部科学省による SGH アソシエイト指定を受けており、学校設定科目として「SIA 特論」（SIA とは Sustainability in Action!の略）を高校課程 2,3 年生の選択科目として実施しています。今回ご紹介する授業実践は、「SIA 特論Ⅰ」（高校 2 年生）の年度終わりに総括として実施した内容です。本取り組みの目標は、①自己・他者における「豊かさ」とは何かを認識する、②豊かな社会を実現するために達成すべき現在の課題（SDGs）を理解する、③自己と SDGs の関わりを意識し、課題解決のためのメッセージを若者に向けて発信する、の 3 点です。

具体的な授業実践方法について、段階毎にご紹介いただけますか。

【テーマ】若者から若者へ、『持続可能な社会』を達成するためのメッセージを発信しよう！

STEP1：自分・他人における「豊かさ」とは何か（1-2 時間）

（事前準備）・豊かな社会に必要な要素について、具体的な事例を 20 個ほど書き出した表を作成する。
（例：スマートフォンを持っている、自由に意見を言える社会である、等）

（授業展開）①生徒 1 人ひとりに用紙を配布し、自己における豊かな社会に必要な要素を 7 つ選択させる。
②4-6 人のグループを作らせ、グループとして要素を 7 つ選択させる。
③全てのグループの意見を紹介し、各グループが要素を選んだ理由を共有する。

STEP2：持続可能な開発目標とは何か（1-2 時間）

（事前準備）・SDGs17 の項目を各生徒 1 つずつ割り当てておく。
・ポスター用紙と色ペンを用意する。
・SDGs「虎の巻」（国連広報局作成）をダウンロードし、説明できるようにしておく。

（授業展開）①SDGs「虎の巻」スライドを使用して SDGs の基礎概念を提示する。
②SDGs の割当を示し、各自 PC 等を使用して内容を調べ学習させて、ポスターにまとめさせる。
③国連広報センター作成の SDGs 広報用動画等を適宜映し出し、視聴覚教材により興味を持たせる。

STEP3：作成したポスターの共有・若者へのメッセージを考える（1 時間）

（事前準備）・SDGs シンボルをカラー出力する（A4）・若者へのメッセージを書き込む用紙を作成する（A4）

（授業展開）①4-5 人のグループを作らせ、各自が作成したポスターをもとに SDGs の項目内容を共有させる。
②意見共有の中で、「自分達との関わり」を意識させ、若者へのメッセージを個人活動で書かせる。

STEP4：メッセージ動画撮影・共有活動（1 時間）

（事前準備）・撮影用機材（内藤は iPad を使用）を準備しておく　・糊（テープのりがとても良い）

（授業展開）①A3 ポスターの裏に、カラー出力した SDGs のシンボル・若者へのメッセージ（共に A4）を貼付させる。

②両面をうまく使い、（a）各担当の SDGs トピックの概要説明（b）中高生へのメッセージ、2 点を順番に動画に収める。時間に余裕があれば、全員で吟味しあうと達成感を持たせやすい。

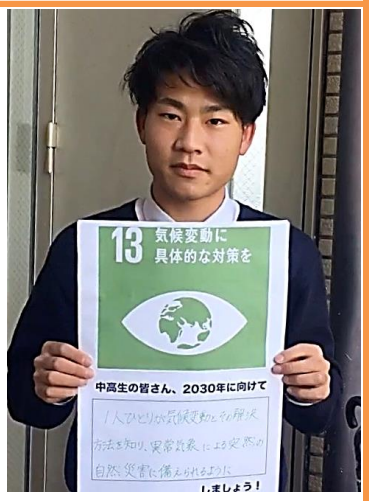
授業実践の計画、実施、振り返り、評価の各段階で、工夫・配慮した点について教えてください。

授業計画から実施、振り返りの中で強く意識したことは、SDGs をどれだけ身近なものとして高校生が意識できるかという点です。「国連持続可能な開発サミット」で可決されたアジェンダであると説明しても高校生には伝わりにくいので、高校生の生活において豊かさを感じる時を意識させ、それが世界中の誰もに当てはまるべきであるという視点から授業立案とアクティビティの運営方法を導きました。

本授業ではアクティブ・ラーニング形式を導入しているので、調べ学習の精度やポスター内容などの質的評価だけではなく、議論時の発言・積極性・動画撮影時の工夫なども含めた総合的な評価ルーブリックを作成し、それに基づき評価しました。

取組み前後の、生徒の変化について教えてください。また、その変化を導きだした主な要因はどこにあるとお考えですか。

自分（高校生）と SDGs を結びつけたメッセージを発信するという点で、各自が 17 の目標について「自分達にできる小さな行動でも、17 の目標に結びついている」という意識を持ったように感じます。目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう、という項目を扱った野球部の生徒は、「野球も SDGs もチームプレーが大切であり、チームで一丸となって目標達成すべきである」と力強いメッセージを残しました。このような変化を導くためには、常に生徒間で議論させることを最重要視し、教員のコメントは最小限に留めることが必要です。SDGs を学習させる上で、唯一の正解や最適な解決方法は存在せず、様々な立場の人間が協働してより良い解決方法を導かせるという点を意識すべきだと感じています。



【目標 13：気候変動に具体的な対策を】メッセージ： 1 人ひとりが気候変動とその解決方法を知り、異常気象による突然の自然災害に備えられるようにする

今後、SDG s に関連づけた授業展開を検討したいと考えておられる先生方が沢山おられます。内藤先生の授業実践における教訓、他の先生方への応援メッセージをいただけますか。

SDGs は、一見するととても規模の大きな目標に見えますが、実際は人々の生活に根ざしたものです。日々の生活から SDGs を意識し、行動する若者を増やしていくことが、私たち教員ができる最大の貢献ではないでしょうか。教員の準備負担を軽減し、スムーズな導入を可能にするのは、授業に向けて教材を考える際に、現存する優れた資料を活用することです。以下は本取り組みを行うに際して活用した資料です。

・『豊かさと開発-Development for the Future-』（開発教育協会）
　→豊かさアクティビティで使用。開発教育についての概念や授業展開がとても参考になります。
・国際連合広報センター・ホームページ（http://www.unic.or.jp）
　→SDGs「虎の巻」や、ロゴの pdf ファイル、Youtube の SDGs 広報動画など
・『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」』（セーブ・ザ・チルドレン）
　→SDGs を若者向けに分かりやすく解説しています。調べ学習で生徒に pdf 版を閲覧させました。